

## 5.13 温室効果ガス

### 5.13.1 工事の完了後

#### (1) 調査事項

調査事項は、表 5.13-1 に示すとおりである。

表 5.13-1 調査事項（工事の完了後）

区分	調査事項
予測した事項	施設の稼働に伴い排出される温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
予測条件の状況	・ 施設の稼働状況（エネルギー消費量、ごみ焼却量等）
環境保全対策の実施状況	・ ごみ焼却により発生する熱は、ボイラ設備により回収し、発電に利用するとともに、近隣施設（こもれびの足湯）へ温水として供給する。 ・ 太陽光発電により再生可能エネルギーを活用して二酸化炭素の削減を図る。 ・ 地上部及び建築物における緑化を推進し、二酸化炭素の吸収量の増加を図る。 ・ 高効率モーターや LED 照明導入によりエネルギー使用量を削減するとともに、室内への自然光利用等により再生可能エネルギーを直接活用して二酸化炭素排出量の削減を図る。 ・ ごみ焼却により発生する熱は、ボイラ設備により回収し、排ガス処理などのプラント設備に必要な熱を賄うとともに場内の熱利用に使用する。 ・ 建築物には断熱性に優れた材料を使用し、空調負荷の低減を図る。

#### (2) 調査地域

調査地域は、計画地内とする。

#### (3) 調査手法

調査手法は、表 5.13-2 に示すとおりである。

表 5.13-2 調査手法（工事の完了後）

調査事項		施設の稼働に伴い排出される温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
調査時点		施設の稼働が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	1年間とする。
	予測条件の状況	「予測した事項」と同一期間とする。
	環境保全対策の実施状況	施設の稼働が通常の状態に達した時点の随時とする。
調査地点	予測した事項	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	環境保全対策の実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	関係資料の整理による。
	予測条件の状況	関係資料の整理による。
	環境保全対策の実施状況	関係資料の整理による。